

松隈洋ワークショップシリーズ vol.1

建築家

前川國男の世界

「弘前市民会館の魅力のすべて」冬編

弘前市になぜ8つの前川國男建築が存在するのか。
その関係性と作品の魅力に迫るワークショップシリーズです。
初回の冬編では「厳冬の弘前が建築の概念を変えた」をテーマに、
弘前市民会館を深掘りします。

日時 2024 1日目 2.17(土) 14:00~17:00 座学
2024 2日目 2.18(日) 10:00~15:00 見学&ワークショップ
※全2回 ※どちらか1日でもご参加いただけます

会場 弘前市民会館
参加費 2日間通し 2,000円(1日のみ参加 1,000円)
定員 各回30名
お申し込み方法 12月3日(日)~
※窓口またはお電話でお申し込みください。
※当日の受付時間は以下の通り
【1日目】2024年2月17日 13:30~
【2日目】2024年2月18日 9:30~

お申込み
お問合せ 弘前市民会館 TEL 0172-32-3374
9:00~17:00 〒036-8356 青森県弘前市大字下白銀町1番地6
休館日/毎月第3月曜日(月曜日が休日の場合、翌日)

主催:弘前市指定管理者 ひろさきホールツリーグループ(弘前市民会館)
後援:弘前市 協力:前川國男の建物を大切にする会



講師 松隈 洋

神奈川大学教授
京都工芸繊維大学名誉教授

講師プロフィール・ワークショップの詳細については裏面をご覧ください





講師 松隈 洋 HIROSHI MATSUKUMA

神奈川大学教授／京都工芸繊維大学名誉教授

1957年兵庫県生まれ。1980年京都大学工学部建築学科卒業、前川國男建築設計事務所入所。2000年4月京都工芸繊維大学助教授。

2008年10月同教授、2023年4月から現職。工学博士(東京大学)。専門は近代建築史、建築設計論。主な著書に、『建築の前夜 前川國男論』、『ル・コルビュジエから遠く離れて』、『モダニズム建築紀行』、『ルイス・カーン』、『近代建築を記憶する』、『坂倉準三とはだれか』、『建築家・坂倉準三「輝く都市」をめざして』、『残すべき建築』、『前川國男 現代との対話』(編著)、『建築家・前川國男の仕事』(共編著)、『建築家大高正人の仕事』(共著)、『日本建築様式史』(共著)など。「生誕100年・前川國男建築展」(2005年)事務局長、「文化遺産としてのモダニズム建築—DOCOMOMO20選」展(2000年)と「同100選」展(2005年)のキュレーションの他に、A・レーモンド、坂倉準三、C・ペリアン、白井晟一、丹下健三、村野藤吾、谷口吉郎・谷口吉生、吉村順三、大高正人、増田友也、山本忠司、浦辺鎮太郎、瀧光夫、鬼頭梓など、多くの建築展の企画に携わる。

DOCOMOMO Japan代表(2013年5月～2018年9月)。文化庁国立近現代建築資料館運営委員(2013年4月～2020年3月)。同志社大学兼任講師(2009年4月～2012年3月、2018年4月～2021年3月)、京都芸術大学非常勤講師(2011年～)。2019年に著書の『建築の前夜 前川國男論』により日本建築学会賞(論文)受賞。



前川國男と国立音楽大学附属幼稚園の竣工式にて(1983年10月8日)

ワークショップ内容

1日目 座学

講義概要

～弘前なくして前川國男ならず～

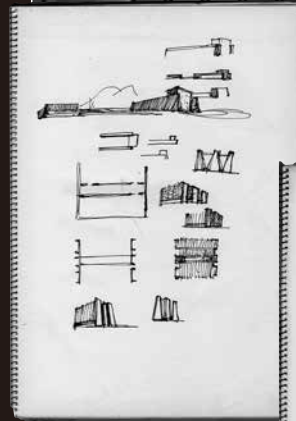
ル・コルビュジエのパリのアトリエに学び、帰国後、レーモンド事務所を経て、1935年に独立、戦前戦後の日本の近代建築を牽引した前川國男(1905～86年)。弘前市に存在する前川國男建築は8つ。その全てが建築家 前川國男にとって大きな契機となり、ひいては日本の近代建築そのものに大きな影響を与えたと言っても過言ではありません。

本シリーズは毎回1つの前川建築にスポットを当て、その魅力を知り、実際に体感することができる2日間のワークショッププログラムです。近代建築の奥深さ、弘前市と前川國男の固い絆、そして、「弘前」の新たな魅力を一緒に探し出してみませんか。

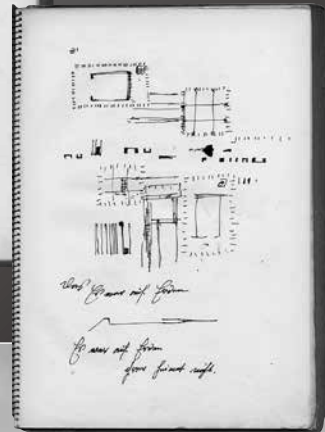
弘前市民会館について

～厳冬の弘前が建築の概念を変えた～

初回の対象建築は、第6回BELCA賞ロングライフ部門にも選ばれており、長年にわたり市民に愛され続けている「弘前市民会館」。円熟期を迎えた前川國男59歳の作品となります。厳冬期の弘前を前提に建築された様々な創意工夫をはじめ、市民の憩いの場、そして、市民会館として舞台芸術を提供する機能に至るまで、市民会館の全ての魅力をお届けします。



前川國男直筆のスケッチ
(前川建築設計事務所蔵)



2日目 見学&ワークショップ

前半では、前日の講義内容を踏まえ、弘前市民会館の外観、内部を実際に見て回り、建築物1つ1つの意味を実感していただきます。後半では、グループワークとし、実際に前川國男の気持ちになって、2月の弘前の環境、劇場、公共物としての機能を考慮した「建築」について考える機会をつくります。

